

東京不知火会総会

東京不知火会常任幹事

岸川 剛 (三十七回生)

第七十一回東京不知火会総会・懇親会は、例年どおり六月第三土曜日の六月二十一日に東京渋谷にて開催しました。

好天に恵まれた会場(渋谷)は、正に谷の頂にあり、汗をかきながらお越しいただきました。郷土諫早より小林同窓会会長(二十六回生)、植松校長、大久保諫早市長(三十六回生)のご来賓、また市職員の方々や諫早修習館の学生さんを含め七十三名となりました。古賀会長(二十三回生)挨拶、新会計担当三ヶ崎幹事(二十八回生)による会計報告のあと、無くてはならない玉山さん(二十二回生・前副会長)の乾杯により懇親会にはいりました。司会

は本間副会長(三十七回生)です。会後半では、郷土より提供いただいた景品福引で、迷司会池田幹事(二十八回生)のもと大いに盛り上がり、大先輩六回生(一九五四年卒)から七十七回生(二〇二五年卒)まで、世代を超えて諫早で母校愛を語り楽しい時をすごしました。

締めは、恒例野田さん(二十九回生)リードによる校歌斉唱。来年の再会を期してお開きとなりました。



関西支部総会

関西支部の活動報告および近況

関西支部長 古川徳三(二十三回生)

関西支部は総会を、十一月二日に、ご来賓として小林会長、植松校長、事務局の前田様の参加を頂き総勢三十八名で開催しました。恒例のお楽しみ抽選会では、各自地元の名産や手作りの品物等いろいろ持ち寄り、わいわいと選びあいました。のんこの節で皿踊りも小林会長を先頭に、思い出しながら二回踊りました。故郷、母校の風景を見ながらサライ諫早版を歌い、最後は校歌の大合唱でお開き。皆様心からの笑顔で来年の再会を誓って解散。

参加者が減少する昨今、総会案内の発送も拡大し、岡山県在住の方にも募った結果新たに二名の参加を頂きました。案内の封筒に、QRコードを印刷しスマホで諫早の風景と校歌の動画が見られるようにしています。

ゴルフ「浪花さいばい会」は四月に二組で兵庫県で行いました。ウォーキング「あるかんば隊」は四月に九名の参加で京都・大阪府境の大山崎近辺の歴史資料館、アサヒ大山崎山荘美術館、お寺等を巡りました。十二月二十一日高校駅伝では、二十名近くが雨の中、西京極の競技場で母校の応援団と共に、諫高と鎮西学院の選手に大声で応援しました。

今年十一月十四日(土)、尼崎で開催します。



中京支部総会

中京支部長 渡邊豊(二十回生)

令和七年九月二十七日、改築が予定されている名鉄百貨店を名残惜しんで、中京支部総会を開催しました。二月末に案内を送付し、昨年度開催しなかった分を取り返そうとしました。

コロナ禍と昨年度開催しなかったこと、過去参加されていた方々の高齢化、若い世代への働きかけ不足といったことが災いして、十名の参加となりました。

坂下一喜先輩(十一回卒)の乾杯から始まり、山田勇先輩(十四回卒)を中心に、懇談が進みました。やはり、みなさん心配なことが共通していました。五年度の総会は八名だったことから、今後の中京支部のあり方です。

関東支部や関西支部に編入させていただくとか、少ないけど何とか続けたいとか、様々です。

八年度は、今後の方向性を考えていこうということでした。



長崎支部総会

新長崎支部長 樋口慎介(二十九回生)

長崎支部は、二〇二六年一月三十日、植松校長、小林会長、前田事務局長のご来賓を迎え、会員十七名の参加により、総会・新年会を長崎市内のホテルセントヒル長崎の「絹笠の間」にて盛大に開催されました。

小林会長や植松校長から、母校諫早高校の、学業やスポーツ(女子駅伝・フェンシング)等、文武両道で、目覚ましい実績を重ねている事が報告されました。

「NBCニュース6」初代総合司会の河野元支部長の張りのある声の下、参加者皆様が、個々の近況を報告され、新年会を盛り上げてもらいました。

また、諫早市にある社会福祉法人「龍美会」の元理事長、詩人でもある高橋桂子様が各テーブルを回られて、皆様に楽しくお声を掛けられていました。

参加された方々は変わりなく旧交を温め、久しぶりの再会に話はずみ、最後は、恒例の肩を組んでの「校歌大合唱」で、来年の再会を期して、閉会しました。



福岡圏支部総会

福岡圏支部長 前田豊(十九回生)

令和七年度福岡圏支部総会は、七月二十六日福岡市八仙閣本店にて開催しました。

小林会長、植松校長、前田事務局長に参加頂き、総勢八十三名の総会となりました。

四十回生以降の参加も少し増えました。今回は平野氏による居合道の演武、総勢による皿踊りの他、前田支部長による卓話などが披露されました。

卓話内容は、「諫早物語」と題して、支部長著書「弁護士の日々記」に記載された伊東静雄、野呂邦暢、長崎原爆と諫早、諫早大水害等でした。

今後も「諫早物語」は継続予定です。例えば令和八年は「諫早の方言」、またその次は福岡圏や全国で活躍している諫高出身者の紹介などの案があります。



お礼 令和七年度全国高等学校 駅伝競走大会出場に際して

諫高「駅伝力」

陸上部顧問・女子駅伝監督 羽山 篤史
(五十一回生)

同窓会の皆様には、日頃より多大なご支援とご声援を賜り、厚く御礼申し上げます。年末の都大路ではたくさんのご声援をいただいたにも関わらず、見せ場を作ることができずに三十九位という悔しい結果でした。「今年は何ける」という言葉で一年をスタートした一年でした。チームの奮起を促すために当時一年生の二人を主将に任命しました。例年以上に走り込み、何度も



ミーティングを重ね、ようやく形ができたのが九月下旬でした。苦しいトラックシーズン、ひたすら自分と向き合った夏合宿、やはり駅伝にかける想いは誰にも負けてはいませんでした。伝統の「駅伝力」を垣間見た瞬間でした。その後、下馬評を覆す完全優勝で都大路の切符をつかみ取りましたが、全国の壁は高く、簡単に上位争いをするにはできませんでした。三区以降で巻き返すことができたのですが、前半の遅れも大きく悔しさの残る結果となりました。途切れることのない声援により、今の力を出し切ることができました。目標は届きませんでした。



したが、最後まで彼女たちらしく駆け抜けてくれました。さらに飛躍できるように精進してまいります。今後とも変わらぬ応援をよろしくお願いいたします。

定時制の現在

定時制教頭 酒井 太一 (四十四回生)

令和七年度の主な行事は次のとおりです。四月八日、第七十七回入学式において十二名の新入生を迎え、全生徒を四十一名でスタートしました。生徒は夕方から四コマの授業を受けています。そのうち、約六割の生徒が昼間に働き疲れたながらも、仕事と学習の両立に向けて頑張っています。六月八日、県定時制通信制体育大会が佐世保市で行われ、本校からバドミントン競技と卓球競技に出場しました。大会に向けて短い時間ながらも練習に取り組み、大会当日も思い切ったプレーができました。十月五日、県定時制通信制生徒生活体験発表大会が佐世保市で行われ、三年原田波音君がこれまでにの人生を振り返って「彩がさすとき」というテーマで堂々と発表し聴衆を魅了しました。十月十七日の第十六回文化祭は、生徒会のオープニングビデオ、各学年の展示、家庭科、国語科の作品展示、三年ド販売、PTA&職員によるフランクフルト販売など大盛況に終わることができました。十月三十一日、諫早青少年自然の家において野外炊事等の体験活動を行い、生徒同士が学年を超えた交流を深めることができました。

シリーズ「おしどりの池」②③

二度目の母校

鳴 藤 慶 太 (四十五回生)

生徒として三年間、教諭として六年間学び育てていただいた母校に、昨年四月から教頭として戻ってくるのが嬉しかったです。また、息子も昨年三月に諫早

た。十一月二十二日、諫早・大村・島原の定時制三校による中地区定時制体育大会が本校体育館で行われました。バドミントン競技・卓球競技・学校対抗の長縄跳びを実施し、三校の生徒の親睦を深めることができました。

今年度の卒業予定者は十三名です。令和六年度までの定時制の卒業生は一五六九名であり、その一員として加わることとなります。一人ひとりの活躍を大いに期待したいと思えます。なお、各行事の様子はHPをご覧ください。

本校は今、時代や社会の変化に伴い、学びの在り方や学校の役割が問われる大きな転換期にあります。一方、「文武両道」や仲間と切磋琢磨し高めあいながら成長していく校風は、今も確かに受け継がれており、先輩方が築いてこられた伝統の上に、新しい時代にふさわしい諫

教育活動を充実させ、実り多き一年になるよう生徒と職員

が力を合わせて盛り上げていきます。



入学式



文化祭



野外活動



中地区定時制体育大会

